

平成 28年 業種別労働災害発生状況

(平成28年 1月～12月末発生分【確定】)

帯広労働基準監督署

区分 業種別	平成 28年 (確定)			平成 27年 同期			対 前 年		本年分 業種 割合 (%)	
	死 亡	休業 4日 以上	合 計	死 亡	休業 4日 以上	合 計	増 減 数	増減率 (%)		
全 産 業 合 計	10 (2)	487 (25)	497 (27)	5 (1)	487 (22)	492 (23)	5	1.0	100.0	
除 く 鉱 業 計	10 (2)	487 (25)	497 (27)	5 (1)	487 (22)	492 (23)	5	1.0	100.0	
製 造 業	2	96 (1)	98 (1)	1	93 (2)	94 (2)	4	4.3	19.7	
内 訳	食 料 品	1	63 (1)	64 (1)	1	64 (1)	65 (1)	-1	-1.5	12.9
	木 材 木 製 品		10	10		7	7	3	42.9	2.0
	紙 ・ パ ル プ									
	窯 業 ・ 土 石		3	3		2	2	1	50.0	0.6
	金 属 ・ 機 械		14	14		5	5	9	180.0	2.8
	そ の 他	1	6	7		15 (1)	15 (1)	-8	-53.3	1.4
鉱 業										
土 石 採 取 業		2	2		8	8	-6	-75.0	0.4	
建 設 業	4	66 (2)	70 (2)	2 (1)	66 (3)	68 (4)	2	2.9	14.1	
内 訳	土 木 工 事 業	2	13 (1)	15 (1)		17	17	-2	-11.8	3.0
	建 築 工 事 業	2	27	29	2 (1)	36 (1)	38 (2)	-9	-23.7	5.8
	木 造 建 築 業		16	16		9 (1)	9 (1)	7	77.8	3.2
	そ の 他		10 (1)	10 (1)		4 (1)	4 (1)	6	150.0	2.0
道 路 貨 物 運 送 業	1 (1)	56 (8)	57 (9)		59 (3)	59 (3)	-2	-3.4	11.5	
そ の 他 の 運 輸 業		8	8	1	8	9	-1	-11.1	1.6	
陸 上 貨 物 取 扱 業					1	1	-1			
港 湾 荷 役 業					2	2	-2			
林 業		29	29		20 (1)	20 (1)	9	45.0	5.8	
漁 業		5	5		6	6	-1	-16.7	1.0	
卸 売 ・ 小 売 業		55	55	1	59 (3)	60 (3)	-5	-8.3	11.1	
清 掃 業		18	18		21	21	-3	-14.3	3.6	
そ の 他 の 事 業	3 (1)	152 (14)	155 (15)		144 (5)	144 (5)	11	7.6	31.2	
内 訳	農 業		24	24		17	17	7	41.2	4.8
	畜 産 業		35	35		39	39	-4	-10.3	7.0
	接 客 娯 楽 業		20 (2)	20 (2)		17	17	3	17.6	4.0
	農 業 協 同 組 合		5	5		9 (1)	9 (1)	-4	-44.4	1.0
	そ の 他	3 (1)	68 (12)	71 (13)		62 (4)	62 (4)	9	14.5	14.3

本統計は、労働者死傷病報告(休業4日以上)により集計したものです。

()内は、交通事故内数です。

平成28年 死亡災害発生状況

帯広労働基準監督署

発 生 月	時 刻	業 種	事 故 の 型	起 因 物	災 害 の 状 況
5 月	15 時 台	食 料 品 製 造 業	墜 落 、 転 落	フ ォ ー ク リ フ ト	被災者は、敷地内の作業道（幅員4.7m）をフォークリフトで後進走行中、路肩から逸脱し、高さ1.8m下の沢へフォークリフトと共に転落し、車体の下敷きとなり死亡したものの。
5 月	16 時 台	建 築 工 事 業	崩 壊 、 倒 壊	解 体 用 機 械	木造2階建ての牛舎解体工事において、解体用つかみ機を用いて1階部分の壁（コンクリートブロック積み）を倒そうとしていたところ、何らかの原因により当該壁（幅20m、高さ2.4m、厚さ0.15m、推定総重量7.2t）が倒れ、退避していなかった被災者が当該壁の下敷きとなり死亡したものの。
5 月	17 時 台	そ の 他 の 事 業	お ぼ れ	水	被災者は一般廃棄物処理場の管理人であるが、事業場と電話で話をしたのを最後に行方不明となり、捜索した結果、処理場内の調整池（水深約1.8m）に沈んでいるのが発見され、死亡が確認されたものの。
8 月	1 時 台	そ の 他 の 事 業	交 （ 道 路 ） 通 事 故	ト ラ ッ ク	被災者ら3名は、河川の流量測定を実施後、社用車に乗車して走行移動中、台風による増水により約8メートル崩落していた橋の橋台付近から車ごと川に転落したものの。同乗していた2名は自力で脱出したが、運転者1名が行方不明となった。関係機関等による捜索活動の結果、3日後、災害発生現場から約300メートル下流において遺体で発見されたものの。
9 月	9 時 台	建 築 工 事 業	墜 落 、 転 落	建 築 物 ・ 構 築 物	小学校プールの屋根部分に相当するビニールテントをはがす作業を終え、親綱を取り外す作業に取り掛かろうとしたところ、鉄骨梁（高さ約3.6m）から墜落し、出入口コンクリートたたきに左太ももを強打し死亡したものの。保護帽、安全帯は装着してたが、安全帯を親綱にかけていなかった。
9 月	13 時 台	土 木 工 事 業	墜 落 、 転 落	整 積 地 込 み 用 機 械 ・ 運 搬 機 械	被災者は、タイヤショベル（0.3m ³ ）のオペレーターである。 盛土した作業用通路（長さ約10m、幅員約5.5m、高さ約1m）を空荷で後進中、左後輪が路肩から逸脱して横転、約1m転落したタイヤショベルの運転席フレーム部分の下敷きになったもの。シートベルトは装備されていない型のタイヤショベルであり、運転席の扉は両側とも開けたままだった。

平成28年 死亡災害発生状況

帯広労働基準監督署

発 生 月	時 刻	業 種	事 故 の 型	起 因 物	災 害 の 状 況
11 月	21 時 台	そ の 他 の 事 業	墜 落 、 転 落	建 築 物 ・ 構 築 物	被災者は、ダム管理所の夜間警備及び情報連絡業務を単独で行っていたが、午後9時30分頃、施設管理者の担当者に停電通知メールが自動送信されたため、原因調査のために当該担当者が午前0時10分頃にダム管理所を訪れたところ、玄関横に倒れている被災者を発見したものの。屋上に設置されたアンテナを点検していたところ停電となり、屋上から地上まで8.45m墜落したものと推定される。
11 月	15 時 台	自 動 車 整 備 業	は 巻 き 込 ま れ	ト ラ ッ ク	被災者は、凍結防止剤散布車の修理点検を行っていたところ、車両後部にある凍結防止剤を投入するホッパー内下部にあるシャフト及びスクリーコンベアに右半身を巻き込まれた状態で発見されたもの。
12 月	6 時 台	道 路 貨 物 運 送 事 業	交 通 事 故 (道 路)	ト ラ ッ ク	被災者は、家畜運搬車を運転し、荷主先に向かって国道を走行していたところ、凍結路面の左カーブで対向車線にはみ出し、対向してきたトラックと衝突し被災したものの。
12 月	10 時 台	土 木 工 事 業	飛 来 、 落 下	立 木 等	被災者はチェーンソーを使用して、河川敷の支障木等の処理作業を行っていた。広葉樹（高さ7m、胸高直径23cm）を伐倒しようと追いつ口を切っていたところ、折れてぶら下がっていた枝（長さ7m、根元直径14cm、重量30kg程度）が高さ5.7mの箇所から落下し、被災者の頭部を直撃したものの。（ヘルメットの着用あり）